

介護老人保健施設しおさい

症例概要 利用者: 90代 女性 介護度 4

利用期間: 令和3年1月～令和3年4月 長期入所を利用

病名: 誤嚥性肺炎・G群連鎖球菌菌血症・COVID-19 感染後

既往歴: 子宮筋腫・甲状腺機能低下症・胃癌・肋骨骨折・尾骨骨折

経過: 令和3年1月当施設における新型コロナウイルス感染症クラスター中に、新型コロナウイルス感染し一時危険な状態だったが、ご本人の目標に向けた取り組みと、西伊豆健育会病院との連携により回復した症例。

内 容

長きに渡り、しおさいの長期入所をご利用されていた方です。令和2年12月末に意識消失にて西伊豆健育会病院にて入院加療され、令和3年1月に再入所されました。その矢先、当施設にて新型コロナウイルス感染症クラスターとなり、利用者さんも1月末に感染してしまいました。感染が判明した当初、ご家族は病院での入院をご希望されていましたが、受け入れ先がなく、施設での対応となりました。感染後一時は病状が不安定となり、食事も召し上がれず寝たきりとなってしまいました。通常では施設医の対応ですが、クラスター発生中は西伊豆健育会病院の医師がフォローして下さり、毎日状態の報告・診察をし、施設に居ながらも医療が受けられる状態となりました。厳しい状況ながらも、感染観察期間が終了した際、私たちはなんとか利用者さんにいつもの日常を取り戻すことが出来ないか、楽しみにしていたご家族とのお電話が出来ないか考え、まずは療養生活において低下した体力・筋力を少しずつ取り戻すため、床上リハビリから開始。

食事はご家族との毎日のお電話でもご相談しながら、プリンやゼリーなどご本人のお好きな補食を多くしながらも、栄養がとれるように食事形態を変更しました。諦めずにケアを継続し続けたところ、少しずつではありますが、回復の兆しが見え、ご家族も大変喜ばれました。

3月に入り、ご家族からご本人にお手紙が届き、ご自分で読むことが出来るか心配でしたが、何度も何度も読み返し、涙を流されていました。

私たちにとっても想像を越えた未知のウイルスは、利用者さん・ご家族はじめ職員も心を大きく蝕まれるものでしたが、その中でもこの涙はとても嬉しい涙となりました。またご家族も、「今までたくさんの病気を患ってきたけど、今回ばかりはダメだと諦めていました。これも全てしおさいと西伊豆の先生のお

かけです」と電話越しでも泣いているのがわかるくらい喜んで下さっており、ご本人も、お手紙に「女子会やろうね」と書かれていたことを目標に、リハビリに励み、元気を取り戻されました。また食事も介助を要していましたが、ご自分で召し上がることが出来るようになりました。しおさいでもしも陽性者が発生した時には、転院先が見つかるまで施設対応であろうと想定していましたが、現実には施設で次々と陽性者を対応することでした。想像を越える苦境の中でも、健育会のグループ力が実となって利用者さんご家族の日常を取り戻し、お手紙やお電話で語り合える日を迎えることができ、その笑顔と涙は輝いたものとなりました。有事で沈んでしまった気持ちに寄り添い、ご家族を感じる事が出来る環境を提供することで、ご本人に笑顔と生きる意欲を取り戻し、当たり前の日常の大切さや幸せを感じていただける症例となりました。